

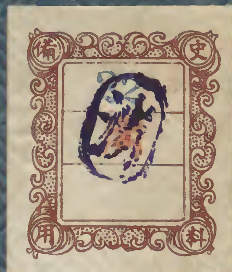
上野名跡志

二篇

五

法政司
加多

庫	文	閣	内
函	冊	號	類
二	七	一	和
〇			書



地
四
一

内閣文庫	
番號	和 36471
冊數	7 (5)
函號	174 238



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

周記

野名跡志二編卷下

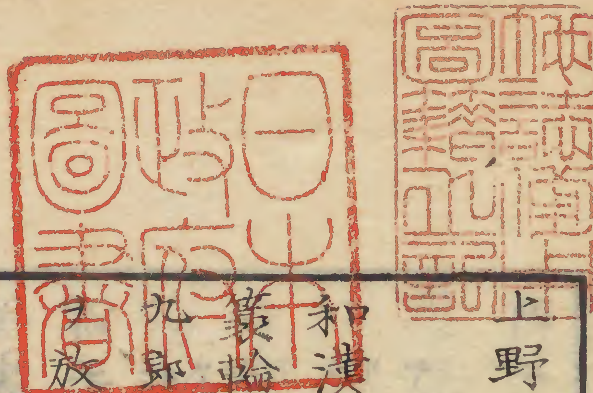
○白岩村

上毛 富田永世輯錄

和漢三才図會ニ白岩寺十一面観音坂東十五番札所新長谷寺ト云
叢輪軍記ニ那波無理之介手勢二百人ニテ白岩山ニイタル安藤
九郎左衛門百騎ニテ駈付防戦ス安藤終ニ討死ス無理之介坊舎
放火ス青柳金玉二百人ニテ来防那波戦負松枝ニ引退云々

○室田 傳説雜記ニ室田ハ長野ニ河守居所ト云

関東古戦録ニ永祿六年叢輪攻ノ段ニ當城主長野左衛門大夫業
正ハ去年十一月病死累世之菩提所室田ノ長年寺ニ送り寺中ニ
葬云々 叢輪軍記ニハ業政永祿四年六月廿一日病死ト云何是カ
○室田子権現境内古碑梵字文保二年午戌二月トアリ
○谷々沢ト云ニ桃林アリ花ノ頃人羣テ見ニ出ワ
○三ノ倉



關東古戦録確水峠合戦上杉方ニ三倉
築輪落城ノ段ニ三倉モ降ル云々 和田記ニ三倉

○権田村

権田村ニ馬頭觀世音ノ御堂アリテ熊谷次郎直實カ馬ノ権田粟
毛ハ此里ヨリ出シカ軍ハテ、後ヒトリカヘリキテ死シヨ埋テ
觀音ノ御堂ヲ建タル也ト傳フ

平家物語ニ熊谷ハ権太栗毛ト云名馬ニソ兼タリケル云々
源平盛衰記ニ権太栗毛ト名ツク云々

按ニ此里ヨリ出シニハアラス源平盛衰記ニ熊谷カ舍人ニ権
太ト云者アリヨク馬ヲ飼直實云馬ハ武士ノ宝也ヨキ馬ヲモ
トメテエサセヨト上品ノ緒ニ百匹ヲ權太ニ与フ權太是ヲモ
テ陸奥ニ下リ一ノ戸ヨリ逸物ヲエテ奉ル權太栗毛ハ名ツク
トアリサテ其馬一ノ谷西木戸ノ合戦ニ矢ニアタリシ更ア
ヤリ權太ハ此里ヨリ出シ者ナルヘケレハエテカヘリシナトニ

因ニ云宇治拾遺物語ニ信濃國ツクマノ温泉ニ觀世音沐浴シ玉

フヘキヨシ所ノ人ノ夢ニ見エ玉フヨイカサマニテ見エ玉フト
問ハハアスノ午ノ時ハカリニ三十許ノ武士馬ニ兼テ来ルヘシ
ソヲ觀音ト思ヘトノ告ニテ其時ヲマツニ夢ノ告ニ露タカハ又
侍其時モタカヘス馬ニ兼テ出コシヲ人々ツトヒテヲカニ奉ヲ
湯アミセル人ノ中ニ見シリタル者アリテアレハ上野國ノ馬頭
又シナリトイヘハ其名ヲ馬頭觀音ト名ツクトアリ今馬頭ノ地
名上野ニハ聞エス下野ノ國那須郡ニ聞ユレハカナタナルヘシ
○山吹日記ニ云榛名山石神村ノ畠中ニ忠懷忠存ノ墓有建武ノ頃
此二人ハ吉野ノ御味方頼印ハ足利方ニテ斯ニ戦ヒ西人討死セ
シヲ葬シト傳云々妙義ノ道アリ是ヨリ六里上室田秋間佐野
尻峠中後關増田村ヲヘテ松井田ニ出ル也

○榛名山

上信日記ニ云榛名人町ニ入坂路ノ左右ニ別院寺院多シ御師ト

ヨハル、者軒ヲナラヘタリニ天門ヲ入ルヨリ橋ヲワタレハ谷
川右ニナカレテ松杉生タリ左右ノ山ミナ巖ニテオチクル瀧ヲ
カシキヲ鞍カケ岩ト云其上ニソヒエテマコトニ馬クラノサマ
シタリ雷電岩風天岩アリ樓門ニ入御社ニマウツ袖スリ岩トイ
ヘルアハロヲスリヌケテユク御姿岩トイヘルカシラワキカタ
チソナハレリ大岩ソロエシ其モトニ御社ツクリカケタリ此巖
ノ中ニ七重ノクロカ子ノ門アリテ其内ニコモラセ玉フトソ神
ハクサノ、ノワタヘアリテワマヒラカナラス大黒岩ツ、ラ岩
ヨロロ岩ノソキ岩龜岩瓶子岩ナト救アリ云々
文布ニ云榛名ノ御山ハイトカミサヒタリユロヲ立タラン如キ
イハホオボクテ峯ノヨソメナトエニシモマタ見シラヌサマナ
リ云々 諸國里人談ニ榛名山ニ御福石ト云アリ豎横七尺許ノ
大石也コレヲ手ヲ以テユスレハ動ク奇石也ト云

上野名跡志二ノ下二

榛名山満行宮大権現ト申奉也辛料縁記ト云モノニハ上野國西
七郡ノ領主群馬ノ太郎満行ヲ祀ル榛名由来記ト云モノニハ南
部三郎満行為讒者榛名山ニ遠流帝ヲ奉怨伊香保沼ニ入水其靈
ヲ祀ナトアレトイツレモ信カタク説也満行ヲ諱ト思テノ附會
ナルヘシ尾張國ノ神名牒ニ立山満行大菩薩伊豆満行大菩薩ニ
荒満行大菩薩ナト見ユレハ満行ト云夏ハ諱ノ満行ニハアラテ
外ニユエアルヘシ
後上野志ニ舊夏大成経ヲ引テ回事紀天孫本紀ノ彦湯支命ニマ
ス也是ハ伊香保ノ神社ニマシテ伊香保ノ湯前明神ハ若伊香保
ノ神社ナルヘシト云
山吹日記ニ榛名大明神ハ元湯彦命トモ満行將軍トモ埴安大神
トモ云元湯彦命ト申御名ハ大成経ニ出タル説ニテ正シキモノ
ニハフツニ見エ子ハ用ヒカタシ満行將軍ノ名モナヘテ聞エサ

文永五年二月十日大勧進僧采円トアリ古キ鍍燈籠アリテ上野
國車馬郡満行大権現御靈前奉治鑄燈爐一基云々ノ銘文アリテ
元亨三年トアリト云 山吹日記ニ夜フケテ慈悲心鳥ノ声シハ
ノ、キクト云。斯ヨリ伊香保へ三里也

上信日記ニ云坂路十八町ヒタノホリニノホリテツ、ラ岩トテ
岩ノウヘニイクツトモナク重子アケタル岩ノ今ヤクツレオチ
ナマシト思ハル、也ノホリワクセハ天神峠ト云ニイタル榛名
ノ大鳥居アリ目ノ下ニイカホノ沼アリ今ハ榛名ノ湖ト云メク
リ一里半四方山ノ裾ナリ水清ラカニ魚オホクスメリ云々
文布ニ云イカホノ沼トキコユルハ此ワタリトカヤイヘトシル
人モナシ此大神ノミタラシトテイトノ、大キナル沼ノアルヤ
ソナランナト人々オシハカリニイフノリ云々
山吹日記ニ云榛名ノ沼ニイタリヌイニシヘノ伊香保ノ沼ナル

上野名跡志二ノ下四

ヘシ沼ノ汀ニケチカク墓ノシルシアリコレハムカシ緑野郡ノ
水部何某トカヤイヒケル人ノ此沼ニ身ヲシツメタルカ墓也古
キシルシハ水ニ入テウセタレハフタ、ヒ作り立タルナリト云
スエ石ハ古キヤウナレハヨクミルニ明德ノ二字アリ云々
傳説雜記ニ明德ノハ吾妻郡原町善導寺二世円光上人ノ母ニテ
水部氏ノ室ハ天正十三年十二月廿七日也ト云

○伊香保沼

八雲御抄ニイカホノ沼上野在山上池ナリ藻塩草イカホ沼上野
若羊郡若羊ハ羣ノ字羣馬郡カ古今集打聞ニイカホ沼上野也式
内羣馬郡伊香保ノ神社アリ 夫木集 類字名所和歌集 名所
方角抄 八代集抄 題林抄 歌枕名寄 秋篠覺 名所今歌集
等ニ伊香保沼上野 名所補翼抄ニハ上野羣馬郡ト云
ト云 名跡考ニ今榛名沼ト言モノ是也石垣沼モ此沼ノ異名トモ云

可美都氣努伊可保乃奴麻尔宇惠古奈空可久古非牟等夜多祿物
得米家武

古今和歌集長哥
いかにわの沼のいかに

新渡村遺夏
いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

いかにわの沼のいかに

壬生忠峯

よみ人志

順徳院

定家

顯仲朝臣

家隆卿

知家卿

從三位行能卿

僧正行意

正三位知家卿

藤原康光

同
世の志つむとの葉をわのまゝとてわの沼のいかにわの沼のいかに
古今六帖
わの沼のいかにわの沼のいかに

歌枕名寄ニ此哥且兩國トイハリ上ツケヨミ子ノクト誤シカ
アサカノ沼ヲ伊香保ノ沼トアヤマリシカ
名所補翼抄ニ此歌ノ右ニ陸奥ノ浅香ノ沼ト云哥アルニ目ウ
以リテカクアヤマレルニヤト云

北國記行ニ一七日伊香保ニ侍シニ出湯ノ上ナル午巖ノ道ヲハ
ルノトヨ子ノホリテ大ナル原アリ其一カタニソヒエタル高
峯アリヌノ嶽ト云禁ニ流水アリ是ヲイカホノ沼ト云イカニシ
テト侍往躅ヲタワ子テワケノホルニカラ衣カクルイカホノ沼
水ニケフハ玉ヌクアヤメヨソヒクト侍シ京極黃門ノ風姿マコ
トニ妙ナリ枯タルアヤメノ根霜ヲ帯タルニマシレル杜若ノク
キナトムカシムワマシカオホエテ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

釋
上信月記ニ沼ヲツ、メル山ノ名ハ伊香保富士氷室嶽カモニカ

嶽硯嶽ヒニクシノ嶽烏帽子嶽ナト云相馬カ嶽ノモトヲヘラニ
ツ嶽ノカタヘヲ過ク沼ノ東南ノ山々ハニナイニシヘニイヘル
イカホノ子口ナルヘシ云々

○伊香保嶺

八雲御抄 藻塩草 歌枕名寄 秋森覺等ニ 上野

萬葉集十四上野歌

伊香保祿爾可未奈那里曾祿和我倍尔波由惠波奈家杼母兒良尔

與里丞

伊香保呂尔安麻久母伊都藝可奴麻豆久比等登於多波布伊射祿

志米刀羅

能倍尔伊賀可流久毛能可努麻豆久ト云哥アリカ又マツク地
名ニハアラテ詞ナルヘシ傍注ニハ此間彼間カトイヘリ
仙覺抄ニカヌマツクハ沼ナレタリト云詠カハ詞ノ助ナリト云
畧解ニハ可奴麻ハ加沼ニテ今モ有地名ニテ伊香保ノ山ノ雨
雲ノハビコリテ加沼ト云所迄ヒトツケニツケルヲ言ト
アレト加沼ト云所イワクトモシリカタシ下相聞ノ中ニ伊波
能倍尔伊賀可流久毛能可努麻豆久ト云哥アリカ又マツク地

可美都氣努伊可抱乃祿呂尔布路與伎能遊吉須空可提奴伊毛賀

伊敝乃安多里

山吹日記ニイカホロノソヒノハリハラハ沼ヨリイカホノ間
ナルヘシ云々

八雲御抄ニハリハラ上野

萬葉十四上野歌

伊香保呂能蘓比乃波里波良祿毛己呂尔於久乎奈加祿曾麻左可

思余加波

伊可保呂乃蘓比乃波里波良和我吉奴尔都伎與良之母與多敝登

於毛敝婆

伊波保呂乃蘓比能和可麻都可藝里登也伎美我麻左奴尔字良毛

等奈久毛

前大納言 顯朝卿

上野名跡志二ノ下六

ソノ神社ナラントイハレトカノレハ榛名ハ椿名ノ神社ニテ茲
マセリ
延喜式名神祭ノ内ニ伊加保神社同神名帳ニ群馬郡三座ノ内

伊賀保神社大名神
續日本後紀ニ兼和二年九月辛未以上野國群馬郡伊賀保社預之

名神同六年甲申奉授上野國无位伊賀保神從五位下

三代實錄貞觀九年六月廿日丁亥授上野國從五位上伊賀保神正

五位下同十一年十二月廿五日戊申授上野國正五位下伊賀保神

正五位上同十八年四月十日丁巳授上野國正五位上伊賀保神從

四位下元慶四年五月廿五日戊寅授上野國從四位下伊賀保神從

四位上上野國神名帳ニ正一位伊賀保大明神
和論語ニ伊香保大明神御神託
我カ國ノ直キ心ヲ人ノ國ニハアキラカナル徳トナツケ佛トイ

ヘリ益人ヨ正シク直カレ心ヲ苦シメテマナヒシルニハナシ

○物聞山 いかにくさるる山ゆり管水のト詠リシハ近江ニテ歌モ同

夫水集 藻塩草 秋寐覺等ニ物聞山上野

和漢三才圖會ニ物聞山在伊香保

後上野志名跡考等ニ物聞山ハ伊香保温泉ノ東南松茂シ山也

夫水集
伊勢

○水澤

和漢三才圖會ニ水澤寺在水澤坂東十六番札所 本尊千手觀音

上信日記ニ伊香保ヨリ一里六丁下リテ水沢觀音堂アリ莊嚴キ

ヨヒヤカナリカタヘニ六角地蔵アリ立像六躰御丈六尺余樓ニ

座像一躰二天門アリムカヒテ堂ノ左ニ板佛アリ元亨四年三月

廿日トアリテ左右梵字ヲエリツケタリト云

○山吹日記ニ云水澤ノ左ニ船尾山ソヒエタリ傳教大師ノ開基

ニテ昔ハ大寺アリシヲ千葉介胤正攻亡シトテ今ハ寺ナシト云
傳説雜記ニ同シ 文德實錄ニ嘉祥三年夏四月丙子詔上野國聖
隆寺為延誓寺別院 今聖隆寺閉工ス 船尾山ニハアラサリシカ
○桃井 名跡考ニ今山子田ト云此地桃井原存スト云
山子田柳沢寺古鐘室龜ニ年ト開ケト未見
和名抄ニ桃井乃々 東鑑ニ上野國桃井庄 桃井八郎
太平記ニ桃井遠江守有常同兵庫介顯氏同修理亮美盛同播磨守
同右京亮 櫻雲記ニ桃井直常
續太平記ニ持氏方ニ桃井下野入道直連同中務直弘同直和
南方記傳ニ桃井左衛門佐浪合記ニ桃井右京亮同入道宗綱
後太平記ニ桃井右京亮 和同記ニ同京好 鎌倉大草紙鎌倉九
代記ニ桃井下野守同結城攻寄手ニ桃井ノ人々同城兵ニモ桃井
刑部同修理同和泉守同右京 相州兵亂記ニ信州小笠原攻桃井
左衛門督ヲ大將ニテ上州一揆打立ト云

武家系圖ニ桃井義胤ハ足利義兼ノ四男ト云桃井直常北國ニ住
更太平記ニ見ニ足利武鑑ニ桃井修理亮義盛越前トアリ此内ニハ
越前ノ桃井モアルヘケレト斯ヨリ起リシ也
傳説雜記ニ山子田桃井ハ藤内左衛門尉後ニ天野藤内左衛門云々
○半田村
傳説雜記ニ半田ハ比企藤太郎是ヲ三角ノ城ト云々
○有馬村 和名抄ニ有馬 安利
延喜式上野九牧ノ中有馬島 拾芥抄牧名ニ有馬
三碑考ニ有馬ハ荒馬ニテラキノ反リ也ト云
○若伊賀保ノ神社ハ泰叟寺ノ境内ノ山ニマセリ
三代實錄ニ貞觀五年十月七日丙寅授上野國正六位上若伊賀保
神從五位下元慶三年閏十月四日庚寅授上野國從五位下若伊賀
保神從五位上同四年十月四日甲午授上野國正五位下若伊賀保

神正五位上上野國神名帳惣社相殿十社ノ内正一位若伊賀保大明神
山吹日記ニ有馬村ニモ甲波宿祢ノ社アリ御旅所カト云

○澁川 三國通也

東鑑ニ澁川跡五郎同武者所同刑部六郎兼守同五郎兼保同左衛門
北條九代記ニ波川武者所 太平記ニ波川上野守 南方記
傳ニ波川刑部太夫 續太平記ニ波川 後太平記ニ上野國ノ住
人波川左馬介同治部少輔義廉 鎌倉大草紙鎌倉九代記ニ波川
左馬介 足利武鑑ニ波川中務大輔直國 傳説雜記ニ波川太郎
同次郎同五郎ト云 武家系図ニ云澁川義顯ハ足利泰氏ニ男相
州兵乱記ニハ義氏ニ男ト云

○川島村

黒河氏春村曰甲波宿祢ノ祢ハ弥ノ誤字ニテ甲波宿祢ノ神社ナルハ此誤字式内ニ猶見エタリサテ宿ハ吳音シユクナレハ其韻ヲ省テ用ヒ弥ハ常ニミトノミイヒナレタレトマノ音モアルハ古書ニ證アマタ見エタリ此神今モ川島村ニマシマスニテ知ヘシト云バリ
甲波宿祢神社アリ 延喜ノ神名式ニ群馬郡三座ノ中甲波宿祢

神社 續日本後紀ニ兼和十三年八月辛巳奉授上野國无位甲波

宿祢神從五位下 文德實錄ニ嘉祥三年十二月庚戌詔上野國甲

波宿祢神列於官社 三代實錄ニ貞觀九年六月廿日丁亥授上野

國從五位下甲波宿祢神從五位上同十一年十二月廿五日戊申授

上野國從五位上甲波宿祢神正五位下同十八年四月十日丁巳授

上野國正五位上甲波宿祢神從四位下

上野國ノ神名帳ニ正一位甲波宿祢大明神

山吹日記ニ云川島村甲波宿祢神社吾妻川ノ端也天明三年卯七

月淺間嶽大燒泥押ノ時不殘流失ス今ハ二三町高キ所ニ引移セ

リ加保夜沼モ境内ニ有シ力其時流失スト云リシ力傳タル池ノア

○牧村

他書ニハ不見定カナル證モ聞エ子ハ加保夜ノ沼ハタシカニ
斯ナリシトモ定カタシレハ邑衆郡ニ出シ又
三國通也
後上野志ニ利川ノ牧今ノ牧其地ナラント云 延喜式利川ノ牧

拾芥抄ニ利處ノ收和名抄ニ利刈ハ止加利ト云名跡考ニハ
厩橋辺ナラント云群玉翁ノ説ニ白井利刈野ヨリ收迄吾妻川ノ
ト云地名アラハ疑ナク斯也土人ニ問テ定ムヘシ

傳説雜記ニ木二三郎見ユ北越軍記ニ永祿四年上杉謙信上州
出馬吾妻川野ノ橋ニ著白井叢林寺ノ東南廿ヶ所焼立ル云々
名跡考昌賢影像記等ニ雙林寺ハ室徳二年長尾昌賢建立ト云

○白井 和名抄ニ白衣後上野志名跡考山吹日記等ニ白衣ハ白井ト云

東鑑ニ文治六年四月十九日ノ條造大神宮ノ役夫工米地頭未濟
夏頗有職夏奉書神宮使又忝訢之間可致不日沙汰之旨下知給於
有子細所々者今日令注進京都給云々内宮役夫大工作料未濟成
敗所々夏國々某々抑上野國白井河内今去年冬使請取之畢早可
被尋請使也云々

長尾昌賢影像記ニ上州白井ハ昔時伊勢神明ノ御厨ナリシヲ建
保年中ヨリ武家ニ渡ト云 後上野志ニモシカ云東鑑ヨリ云カ
然ルニ建久四年ノ神鳳抄ニ白井ノ御厨見エス建久ノ初ニ渡

傳説雜記ニ右大將家ノ頃
白井ハ河内守常忠ト部經房卿ノ御子也トイヘト定カナラス
戸部經房卿ハ東鑑百練抄等ニ見ユレト此ニヨシアリトハ見

昌賢影像記ニ上杉氏康元元年上州白井ノ庄ヲ賜リ同年十一月
長尾氏入部上杉憲實城ヲ築ト云 長尾ハ上杉ノ内管領也

正代一覽ニ上杉一族相分越後亦ハ上州白井ニ住ト云
上杉氏ノ夏ハ平井ノ所ニ跡ニイハリ

長尾氏ハ東鑑ニ長尾新六定景同太郎景茂同次郎胤景ヲ初テ代
々ノ軍記ニ見ユ 武家系圖平姓鎌倉ノ内権五郎景政ノ孫鎌倉
太郎景忠次男景弘長尾ノ祖也和論語同

影像記ニハ村岡忠通相州長尾郷ニ移リテヨリ長尾ト云建長四年
年宗尊親王ノ供奉上杉掃部頭重房ノ為附添長尾四郎大夫景照
鎌倉入下向ト云同書ニ永亨十年鎌倉持氏憲實ヲ誅セ
ントス景仲智畧ヲ以己カ領分上州白井ノ憲實ヲ移レテ害ヲ道
結城戰場物語ニ永亨十年上杉安房守憲實ハ上野國ノ逃下リ俄
ニ城ヲ構ケル云々鎌倉九代記ニ安房守ハ山ノ内ノ家ヲ開退
テ上野國白井ト云所ニ移云々
將軍家譜ニ云永亨十年上杉安房守憲實自鎌倉山内退居於上野
國白井云々
ニ宮系圖ニハ永亨元酉八月憲實山ノ内ヲ開白井ニ退持氏白
井ヲ攻ル莫クテ年ト云傳説雜記同元年ト十年ノ違アリ
後太平記ニ云上杉安房守憲實ハ上野國白井ニ楯籠ル持氏白井
ヲ攻ル結城千葉小山佐竹河越等白井城ヲ門云々京勢白井ニ著
憲實白井ヲ立鎌倉ニ寄ル云々

傳説雜記ニ永亨元年八月十六日持氏鎌倉ヲ立先手ノ大将一
色等白井城ヲ開京勢下向ヲ聞十月城ヲ巻ホクレ引ト云
南方記傳ニ云永亨十年九月上杉憲實去四日白井城ヲ立同十九
日武藏國分倍ニ著陣ス云々鎌倉九代記同
傳説雜記ニ七月十七日上杉憲實一族上州白井ヲ立ト云
影像記ニ亨徳二年上杉憲忠於御所無故生害昌賢鎌倉ニ入レト
モ不叶白井ニ引退越後ノ上杉顯定ヲ招出シ白井城ニ籠將軍家
ハ訖京都ヨリ鎌倉ヲ攻ル越後ノ上杉房顯父子昌賢父子ニ加勢
成氏不叶鎌倉ヲ落テ古河ハ走ル云々
鎌倉大草紙ニ宝徳二年上杉相模守ハ上州越後ノ堺ハ出迎ヒ政
吏ヲ補佐シ顯定ハ上州府中ニ參還御之御支度ヲ馳走被申八月
廿七日上州白井ヲ立鎌倉ニ赴玉フ成氏後誥出張ニ付兩上杉モ
不叶レテ上州白井ニ引退云々上州白井ノ長尾云々
影像記ニ云文明五年伊玄山内ヲ背白井ニ住永正六年越後ノ長

尾為景卜示合沼田白井兩城ヲ堅越後ノ通路ヲ妨依房顯白井
ヲ攻伊玄不叶白井ヲ落不動山ノ館ニ籠白井ハ大森式部城代ス
七年房顯越後ヨリ歸白井城ニ入云々
相州兵乱記ニ云永正六年憲房越後在國不叶シテ上州白井城ニ
籠ケル管領ハ猶白井ニ御座シテ伊玄入道ニ取向玉フ云々九代記同
北越軍記ニ云白井ノ上杉憲房ハ顯定ノ從弟也永正六年越後ノ
為景為誅伐上杉兵部少輔憲房モ白井ヲ打立云々傳説雜記ニハ白井建芳カ館ト云
影像記ニ房顯白井ヲ退云々永正七年秋長尾為景越後勢ヲ卒上
州ニ來伊玄ニ力ヲ合白井ヲ攻番入不叶落伊玄白井ニ飯城云々
上杉憲政ノ若君龍若丸ハ在白井云々
弘治二年景虎上州ニ馬ヲ立ル景虎憲政ヲ伴テ白井ニ移ル云々
北越軍記ニ永祿四年六月十二日白井城ヲハ長尾政景攻落ス云々
長尾擁四郎景秋ハ白井ノ住人也

傳説雜記ニ長尾憲景ハ天正十一四月卒息擁四郎景廣ハ越後
ノ詰ルト云

關東古戦録ニ云上州白井城至長尾左衛門尉景信其子四郎左衛
門景春入道伊玄其子左京亮景盛入道一色齋忠臣ニテ云々

白井記ニハ伊玄ノ子左衛門尉景英ト云

傳説雜記ニ伊玄ハ扇谷上杉定政ノ臣扇谷ヲ背山内顯定ニ屬シ
亦山内ヲ背扇谷ニ飯ト云

昌賢影像記ニ云元龜三年八月武田信玄白井領ヘ乱入岩井堂ノ
館ヲ攻小野ノ庄ヘ攻入村里ヲ燒拂横川ニ寄居取立柏原ノ館ヲ
燒伊香保ノ北ニ寄居ヲ構波川ヲ放火シ東上州ヘ發向沼田厩橋
ノ通路ヲ妨同九月武田勝頼白井城ヲ攻憲景入道不叶白井ヲ退
不動山ノ館ニ入天正元三月景虎加勢沼田厩橋ノ大軍ヲ以白井
ヲ攻甲州ノ城番ヲ討取一井齋飯城ト云天正十八年擁四郎政景
小田原ノ命ヲ受籠城同年四月寄手波川ノ人家ヲ壞テ壑川ヲ發

ニ渡シ數萬騎ヲ引越白井城ヲ攻又東上州ヨリ攻來勢ハ發峙ノ
館ヲ乘取彼館ヨリ鑊炮ヲ放カケ此時寄手四ノ丸ハ火ヲカケ三
四ノ丸ヲ乘取然レトモ猶城堅固也寄手和ヲ入ル政景降四月十
五月開城ト云同書ニ世代ヲ記シタルニ景熙康元元年十一月白
井入部共五代彦四郎景守其子孫四郎景仲昌賢入道山内其子左
衛門尉昌信山内其子四郎左衛門春景入道伊玄山内執吏職他家
ニ渡ルヲ恨三生涯不隨卒其子左衛門尉景英其子孫四郎為誠其
子左衛尉憲景入道一井齋實ハ惣社ヨリ嗣其子権四郎政景小田
原ニ屬ス天正十八年開城ト云
深谷記ニ白井ハ長尾 上野風土記ニ白井ハ上杉
後上野志ニ白井ハ村岡五郎平忠通七代長尾四郎太夫景熙康元
元年十一月白井ヲ賜リ入部憲景元龜元甲州ノ為ニ開天正元飯
城小田原ニ屬同十八年開城ト云

癸城考ニ云上杉氏累世此城ニ居ル天文廿年憲政越後ハ落テ後
北條氏當國ヲ治ラル天正十八年小田原ヲ攻滅シ時此城七階ト云
名跡考ニ云白井故城ハ長尾四郎左衛門景春入道伊玄居于此其
先長尾四郎太夫景熙建長四年宗尊親王將軍ニ任鎌倉ニ御下向
ノ時附添入トシテ關東ニ下ル此時勅ヲ以上野國白井ヲ賜是ヨ
リ代々上野ニ住シテ建武ノ頃ヨリ上杉ノ内管領ト成白井足利
惣社三家ト成云々

○山吹日記ニ白井東南ニ城跡アリ上杉兵庫頭憲房長尾左衛門
尉景信景春入道伊玄ナト住吹屋空惠寺ニ長尾氏代々ノ墓有云
名跡考ニ鎌倉権五郎景政ノ塔頼朝卿ノ塔ナト境内ニアリト云
墓誌古キハ文永七年二月七日應永三十年八月十四日文安三年
二月廿日寛正元年文明五年六月二日永正十一年八月廿四日是ハ
伊玄入道也傳説雜記ニ成ト云後上野志ニクハシク見ユ

○北國記行ニ三國峠ヲ越重陽ノ日ハ上州白井ト云所ニウツリ
又則藤戸部定昌藤思ノホトコサル十三夜六一續侍シニ云々
九月十三夜白井戸部亭ニテ松間ノ月ヲ云々十一月未ニ上野ノ
場近キ越後ノ山中石白ト云所ニ源房政ニタクヘテ飯路ヲモヨ
ホスヘキヨシ侍シカハ白井ノ入々餞別ス云々廿七日山ノ雪ニ
ムカヒテ朝立侍ル利根川ヲハルカニ見侍リテ
子持山子持山ノ堯惠

按ニ藤戸部定昌ハ上杉氏ニテ氏部大夫トスルヘシ戸部
ハ氏部ノ唐名也藤ハ上杉藤原氏ナレハ藤戸部ト書ルナルハ
傳説雜記ニハ戸部ハト部ノ誤トスレト藤戸部トモアレハオ
ホソカナシ
鎌倉大草紙ニ享徳四年越後ノ守護上杉定昌ヲ上州ヘ招キ云
越後ノ上杉氏部大輔定昌上州ヘ打越スル宗祇法師ノ集ニ
氏部大輔亭ニテ云々上杉氏部大輔定昌逝去ノ申聞テナトア
ル入ニテ越後ヨリ来テ白井ニ住レシナルヘシ

○子持山
山吹日記ニ云中鄉村ヨリ子持山ニ登ル東ニ雙林寺有境内ヲ登

ル二十町アマリ登リテ子持明神ノ社アリ大己貴ノ命ヲ祀ル鐘
アリ永正十二年ノ古鐘ト云

後上野志名跡考等ニ子持村子持神社盤筒女大神ト云
上野國神名帳ニ從五位上子持明神

○子持山 八雲御抄ニ國不記 藻塩草秋森覺等ニ未勘國
児毛コモ知チ夜ヤ麻マ和ワ可カ敵キ流ル氏シ能ネ毛モ美ミ都ツ麻マ氏シ宿シュク毛モ等ト和ワ波ハ毛モ布フ汝ニ波ハ安ア
子持山子持山ノ後賴朝臣

○中山宿 三國通也今ハ群馬也
武藏七黨系凶阿佐美庄五郎弘方領所ノ内上野國吾妻郡中山村
中山藤内左衛門經實共子太郎經氏小中山ト云
東鑑ニ中山二郎重実同四郎重政中山五郎同右衛門尉同左衛門
尉 兼久記ニ中山五郎次郎此人ヲ首此中山カ又ハ他モアルカ
不知武藏高麗郡ニモ中山ノ地名アリ

傳説雜記ニ中山右衛門尉中山衆三十一人或八十八人小田原ヨリ中山城代赤見山城守ト云

○田國雜記ニナキナ夕坂トイヘル所ヲコエ侍トテアル同行ニイヒツカハシケル俳諧歌

杖とたふおしとつゝあふこゝろを藤乃坂とよつりまをゆ久 道興准后

田國雜記標註ニ薙刀坂ハ中山峠ノ夏也ト云俳諧歌集ニ越ノ薙刀坂トアルハ誤ナリ相股湯宿ナト上野ナルニテ越後ナラヌヲシルヘシノ傳説雜記ニ中山不動峠ハ北條ノ加勢赤井山城守防戦所也トアルモ此中山峠カ別所カ不知

○尻高村

關東古戦録碓氷峠合戦上杉方ニ尻高太田三樂越後ニ赴憲政入道ヲ連立尻橋城ニ入再小田原ヲ攻ント諸士ヲ招其催足ニ應スル人々ノ中ニ尻高右京亮 後上野志ニ尻高右京亮ハ上杉ノ家人後甲州ニ降ト云 傳説雜記ニハ知高左馬介

○尻橋

名跡考ニ云前橋中世尻橋トモ書古ノ利刈ノ驛ノ轉ニタルナルヘシト云 三碑考ニ尻橋ハ驛橋ノ意ニヤト云

前橋ハ羣馬勢多郡ニワタレリ傳説雜記ニハ前橋尻橋ハ別今混シテ一ニスルハ非也ト云

和田記ニ尻橋城ハ尻橋氏代々居住其後長尾持ト成後又小田原ノ抱城ト成福島孫十郎城代ト云

新田老談記金山攻寄手ニ尻橋道見ト云入アリ手負尻橋ハ被送ト云 關東古戦録ニ云弘治元北條氏康尻橋ニ在城シ佐野足利

青柳辺ノ諸將ヲ飯降可令成手遣シテ云々上杉景虎利根川ヲ渡リ上泉辺ニ乱入桐生大炊介直綱カ旗下タル膳ノ城ヲ隔シ山上城ニ有シ北條家ノ番卒ヲ追拂大胡民部左衛門ヲ入置キ尻橋表ヘ押詰ケルニ此所切所ニテ倉忽ニ難働早々引取氏康前橋在城也云々永祿二十十月輝虎尻橋ヲ攻ル當城ハ福島孫十郎頼春師岡

山城守栢籠テ在シカ防兼和ヲ乞小田原へ退参ニ付長尾左衛門
尉齋藤下野守入替ル云々
豆相記ニ云景虎拔厩橋城云々亦欲入前橋城云々
新田正傳或問ニ云永祿二年三月謙信厩橋城ヲ攻取長尾謙忠ヲ
籠置同三年景虎上京ノ留守氏康厩橋城ヲ攻取北条丹後ヲ入置
ト云 北越軍記ニ云景虎厩橋ニ馬ヲ入ル云々前橋城ニ越年憲
政本丸輝虎二ノ丸云々
関東古戦録ニ云輝虎ハ平井城ヲ破却シ厩橋ニ入城シ越年永祿
三年二月近衛前久公御父子ヲ供奉シ厩橋ヲ出馬小田原へ發向
鎌倉八幡へ社叅成田長泰カ夏ニ付大儀ノ切ヲ不立厩橋へ軍ヲ
返ス云々 鎌倉九代記ニ謙信降將ノ人質ヲ厩橋城ニ入置成田
叛ニ付成田カ人質ヲ為殺成田カ臣豊嶋美作ハ疾知テ逃ル成田
カ子若王丸ハ逃出利根川ニ没死ト云

関東古戦録ニ云同四年太田三樂越後へ参憲政入道ヲ連立厩橋
城ニ入小田原ヲ攻高坂彈正越後領へ乱入ニ付厩橋へ引入云々
同五年松山為救謙信厩橋へ越山一日休足シ出陣云々
武田三代記ニ云松山城ハ落城ニ付山ノ根ノ城ヲ攻ント遅兵ハ
千人ヲ卒シテ前橋ヲ打立云々
鎌倉九代記ニ謙信松山為後詰厩橋ニ來後詰ヲ不待降シヲ憤
憲勝ノ子ニ人ヲ提切ニスト云
古戦録ニ云謙信厩橋ニ飯二三日入馬ノ足ヲ休館林發向云々厩
橋ノ城代長尾彈正忠景連入道謙忠ハ謙信ノ從弟ナレハ東國ノ
夏一圓ニ任置シニ近年驕奢ノ餘自立ノ志ヲ發南方へ内應レ松
山ノ急モ不救騎西發向ノ先隊ヲ申付シニモ虛病ヲ架へテ出勢
セス是ニ依テ謙信腹ニ居兼五月河田豊前守親章加沼遠江守景
英ニ命シテ厩橋城中ニ於テ謙忠誥腹切セラレケリ云々武田三
代記ニハ謙信呼出シ拔打ニ切ハナシ謙忠カ手ノ者悉誅スト云

關東兵亂記ニ前橋城主長尾彈正謙信ニ被討云々
謙倉九代記及ニ宮系圖傳説雜記ニモ手討ニスト云

古戦録ニ云北條丹後守長國ハ關東惣目付トシテ那波城ニ在シ
カ廐橋城ニ補シテ謙忠カ組子同心迄不殘附與セラレケリ長國

ハ初弥五郎号大剛ノ者也云々傳説雜記ニ永祿三年上杉謙信北條氏康三男三郎殿ヲ入質ニ取和
陸北條丹後守ヲ平井廐橋白井城代トストアレト其後モ往
迫合見ユ三年ハ十三年ニテモアリヤ

甲陽軍鑑ニ云永祿十輝虎前橋在城北條武田兩家ヨリ寄テ前橋
ノ町ヲ燒城兵堅守不出門外迄押寄早々引拂云々

武田三代記ニ云永祿十年上杉謙信入道廐橋ニ在城十月六日北
條家軍勢三萬五千余人武田家軍勢二萬余人都合五萬五千余人

廐橋城ニ押寄市町ニ火ヲ放シ城ヲ十重二十重ニ追取卷一息ニ
攻潰ント捫タリケリサレト城中ニハ楠菊地ヲモ欺管領入道謙

信栢籠レハ城中ハモ痿ス打出々々防戦ス寄手栢ヲツキヨセツ

キヨセ竹把ヲ催テ無難城門ニ攻付既ニ虎口ヲ破ントセシ所ニ

信玄氏康ノ兩將何ト思ケレ早々人數ヲ引上ル斯テ軍勢利根川

ヲ渡頃大風起テ竹木ヲ折砂ヲ飛ス白日暗夜ノ如シ直江山城守

以下ノ老臣城門ヲ開キ討テ出敵ヲ咬留ント頻ニ諫謙信カワテ

不用一人モ打出ヘカラスト下知ス其間ニ兩家ノ軍勢ハ利根川

ヲ渡リテ静々引取ケリ云々

傳説雜記ニハ謙信計テ敵利根川ヲ渡ル頃貝ヲ吹鐘ヲナラシ
太鞍ヲ打急ニ追勢ヲ見ス敵勢驚三分一ハ川ニ落入七ト云

永祿十三年三月謙信前橋へ入城信玄モ西上州ニ発向廐橋ノ城
至北條丹後守信玄ヲ遮ント城ヲ出攻戦此時城伊庵ノ嫡子織部

之介一番ニ鎗ヲ入血戦ス甲兵勇進三颯ト鎗ヲ入レ場所ヲ不去
戦フ北勢破テ廐橋へ引入同十月謙信廐橋ヲ出張信玄箕輪ヲ打
出少々迫合アリ云々天正七卯二月上旬ヨリ勝頼上州ニ打出廐
橋城ニ逗留云々 新田正傳或問ニ廐橋ノ城代長尾玄意齋ヲ追

出シ伊勢ノ城ニ入置シ北條丹後ヲ厩橋ノ為城代云々
將軍家譜ニ云信長定關東制法十五箇條以授瀧河一益一益居上
野厩橋城以振威於關東云々
壬代一覽ニ云天正十年信長上野國並信州佐久小縣兩郡ヲ瀧川
一益ニ賜テ關東為管領 和田記ニ瀧川一益前橋城ニ入部
豆相記ニ云使軍師瀧川居上州厩橋云々
北條五代記ニ云天正十午三月前橋ニ瀧川一益ヲ置テ關東為
管領 新田正傳或問ニ云天正十年六月北條氏政直上州發向
厩橋ノ瀧川ヲ攻落シ北條丹後守ヲ成敗ス
癸城考ニ云天正十三年八月北條氏政厩橋城ヲ明テ當國ノ入質
共ヲ入置堅守護シ中ニモ新田館林ノ兩城主ヲ呼越城ノ入守護
人ヲ附伴ニ來シ家老共ヲモ皆押籠不飯ト云
北條五代記小田原籠城ニ付楯籠關東城々ノ内ニ前橋將軍家譜ニ

前上野志ニ云前橋城ハ文明十二庚子年太田道灌築其後上杉ノ
士長尾彈正入道謙忠居永祿五壬戌年三月上杉謙信ノ手ニ滅ス
其後越後ヨリ北條丹後守居天正六戊寅三月春日山ニテ討死其
後甲州ヨリ西條治部少輔居天正十午年三月ヨリ織田ノ士瀧
川左近將監一益居其後小田原ヨリ瀧田彦四郎松田兵部大夫居
之ト云
○妙安寺 在前橋榎町二十四輩之内
二十四輩順拜國會ニ云一谷山妙安寺東流一谷成然御坊遺跡ト
和漢三才國會ニ成然寺在群馬郡厩橋開基成然房下總國妙安寺
之別也昔聖人自作真像賜成然在當寺東照神君東本願寺與立時
使本多藤左衛門尉召上之令在東六條真影是也慶長八年正月三
日真像京著云々

○比乃祢川前橋ノ町ノ豎町細沢ノ間ヲ流テ羣馬勢多ノ

後上野志ニ云比利根川ハ廣瀨川也勢多郡箱崎村ニテ利根川ニ
分レ新田郡平塚村ニテ復合スト云

和訓栞ニ比ハ物ノ重ルヲイフ信濃ニ田井アリ比田井アリ上野ニ

刀祢川アリテ比刀祢川アルカ如シ云々

信濃地名考ニ田井比田井ハ上野ニ利根川アリ比利根川アルカ
如シト云

松屋叢考ニ云上野ニ刀祢川比刀祢川信濃ニ田井比田井アリ真

ノ刀祢川ヨリ劣レル方ニ比ノ字ヲカウフラセイヘル也

名跡考ニ按ニ刀祢川比刀祢川同義ナルヘシ小田井有比田井有

泊瀨小泊瀨有カ如シト云

関亭翁ハ田水ニ引ン為ニ分タルナレハ下樋小川ナトノ例ニテ
モト樋利根川ナリケントイハレキ

夫木集 歌枕名寄 秋寐覺等ニ比刀祢川上野久留末ノ里ハ善
地村ナルヘシ

難語考ニ云和名抄ニ上野國群馬郡群馬久留ノ郷アリテ二三ノ

句飯耜ト云ニ群馬ノ里ヲ兼タルナレハ四ノ句モ入ト察ル意ヲ

刀祢川ニ兼テ比刀祢川トハイヒナセルナルヘシ利根川ノ外ニ

別ニ比刀祢川アルニハアラシト云

今ノ利根川ハ永ノ寔流ニテ廣瀨川古利根也ト云説ニヨレハ
此難語考ノ説ヨクアタレリ

名跡考ニ云前橋ノ下ニ公田村アリ田令ニ凡諸國公田ハ皆國司

隨郷土估價賃租其價送大政官以充雜用ト云公田村ノ下ニ河内

村アリ此辺ノ惣名ナルヘシ東鑑ニ白井河内分ト云極樂寺ニ頼

朝卿ノ墓有赤祥云長尾昌賢影像記ニ白井ノ城廻ヲ除外河内分
ト云見ニ利根吾妻ノ川内カ

○カ丸村

後上野志ニ貞治ノ頃ヨリ那和日向守廣宗住其末カ丸佐介居テ

天正十八年没落云々

○大友村

大友記上野國大友四郎太夫經家女頼朝公ニ被愛云々 猶利根郡ニ云

○利根郡

延喜民部式ニ利根郡 和名抄國郡部ニ利根止 名跡考ニ利根ハタリタル嶺多ケレハ利根嶺ノノ茂ナルヘシト云

和名抄利根郡郷名 渭田太赤男信之奈万笠科之加佐兵桃奈久美久

渭田八今沼田男科ハ今生品吳桃ハ今存名跡考ニ笠科ハ今ノ片品力辨四ノ庄ト云アリ喜式九牧ノ内辨四ノ牧茲ナル

上野國神名帳利根郡

從一位保寶高明神 從一位小高明神 從二位確根明神

從三位系井明神 從三位笠科明神 從三位鬼坂明神

從四位津馬利明神 從四位上新屋明神 從四位上郡玉明神

從五位上飯玉明神 從五位上山神明 從五位上小用明神

從四位國津社明神 從三位大社明神 從四位上石油利明神

内小高明神ハ勢多郡赤井村ニマセリ古ハ利根郡ノ内ナリケシ
保寶高明神ハ保鷹山ノ神祠ナルヘシ花咲山ノ八日本武尊ヲ
祭ト云ト名跡考ニ見ユ笠科明神ハイツクニマスカマス地笠
科ノ郷ナルヘシ

先代舊本紀ニ云推古天皇十五年秋八月日本武尊四世之孫大

仁鳥臣往東國開田至上野國治利根海廻利根見海狀乃割戸河瀧

磐高二丈屋一百步暴蛟忿荒而洪水漲流爰鳥臣迴妙工敢不損

亡一人遂治水為陸得良田一万七千八百八十一云々先代舊本

紀聞ケハ難信玉勝間ニ舊本大成經ト云偽書アリト云ヒ舊本紀

缺本日本後紀ニ弘仁二年九月丙寅上野國利根郡長野牧賜三品

葛原親王 今下收村上收村村附ニ見ユ

前太平記將門攻ニ官軍利根平八奥州攻官軍ニ上野國ニハ利根

義經記ニ源氏ヲ力ソフルニ上野國ニハ利根

鎌倉武鑑ニ上野國利根ノ郡司四郎太夫平經家ノ女利根ノ局頼

朝卿ニ被罷一法師ヲ産ト云 上野風土記ニハ倉賀野大友氏ノ

女ト云 名跡考ニ大友左近將監能直ノ子利根二郎親秀沼田氏
ノ祖ト云。大友記ニ大友豊前守能直ハ賴朝卿長男也懷妊ナリシヲ
大友齊院次官親義ニ賜リテ後出生ト云
新編鎌倉志源翁禪師ノ傳ニ平時賴以奥州會津利根川ノ庄為翁
ノ饘粥之資トアルモ茲ナルヘシ會津ヘイト近シ
傳説雜記ニ沼田ノ東入ニ巨勢殿屋敷跡ト傳ヘテ御座御座入ト
云兩所アリ和銅二年巨勢朝臣鷹鎮東將軍トスト國史ニ見ユ此
人奥州ヘ下ル時此所ニ暫住居セシニヤト云

○利根川

義經記ニ云利根川ハ上野國利根ノ庄藤原ト云所ヨリ落ツ云々
田國雜記標註ニ云利根川ハ上野國利根郡ノ奥陸奥越後塲ノ山
々信濃塲ノ山ナトヨリ出ルヨ水源トシ片品川吾妻川ヲ入レ赤
木山ノ西ニ出烏川碓氷川加布良川袖流川ヲ合上野武藏ノ塲ヲ
流渡瀬川思川ヲ入レ栗橋ニテニ流トナル一ノ支流ハ武藏下総

ノ界ヲ過堀江村ニテ海ニ注ク一ノ流ハ下総常陸ノ塲トナリ下
野ノ毛野川蚕飼川常陸ノ櫻川筑波川等ノ數川皆落合テ末ハ下
総ノ鉞子ニテ海ニ入ル也川幅五十丁亦ハ七十丁或ハ二三里ノ
所モアリ本朝一ノ大河ナレハトテ坂東太郎ト云々
江戸名所圖會ニ云利根川ハ利根郡文珠嶽ノ幽谷ヨリ發ス万葉
集ニハ刀祢ニ作ル刀祢ハ物ノ屑タルヲ称揚スル辞ナレハ此川
モ関東第一ノ洪河ナレハ関東ノ川ノ屑タル意モテ刀祢ト書ル
ナルヘシト云 櫻雲記南方記傳太平記等ニ延文二年十二月顯
家卿ト鎌倉勢上野國利根川ニテ合戰長井ノ齊藤別當實長兄弟
利根川ノ先陣シテ流死トアルモサモアルヘシ栗橋ノアタリナ
ルヘケレハイト深カルヘシ斯モ大躰ノ大河也
片品川ハ利根勢多兩郡ノ塲ヲ流テ利根川ニ合ス
撰集抄ニ利根川ノホトリニ無相房ト云僧住ケリトアルハイ

八雲御抄 藻塩草 歌枕名寄 秋森覺等ニ利根川上野

類字名所和歌集 同補翼抄 名所今歌集 万葉畧解等ニ利根

川ハ上野ノ國利根郡

萬葉集十四上野歌

カ祢河泊乃可波世毛思良受多多和多里奈美尔安布能須安敞流

伎美可母

新勅撰神祇

古今六帖 利根川ノ流をさゆりてはみてもりりるものごとく流てゆく

夫本集

利根川ノ流をさゆりてはみてもりりるものごとく流てゆく 大僧正公朝

西遊行囊抄ニ白井ヨリ沼田一行道井玉岩本ノ間十八坂七曲ト

テ嶮難也梅野ノ橋十八間利根川ニワタス井玉ハ猪股ナリト云

○沼田 和名抄ニ渭田

東鑑ニ沼田太郎同七郎同小太郎同佐藤太 鎌倉武鑑ニ緒形三

郎惟采平家七シ後上野國沼田ノ流サレ年月ヲフル所ニ惟采度

々愁訴セシニヨリ御赦免アリト云然ルニ東鑑ニハ文治元年十

月十六日ノ条ニ豊後國住人臼杵二郎維隆緒形三郎惟采等去年

合戦間破却宇佐宮宝殿押取神宝依之雖被下配流官府去四日逢

非常赦云々ト見ユ 平家物語義経都落之段ニ緒形三郎惟采ハ

平家ヲ九國ノ中ヘモ入レス追出スホトノ者ナレハトタノムニ

サラハ菊池ノ二郎高直ハ年来ノ敵ナレハ是ヲ給リテ後タノマ

レント云則給ハル六條河原ニテ斬サテ兼領ストアレハ一度赦

ニ逢義経ノ味方シテ又再配流トナリシナルヘシ 後上野志名

跡考等ニ緒形惟采義経与力ノ聞ハアルニヨリテ此所ヘ配流配

所ニテ三郎惟康ヲ産惟采ハ赦ニ遭本國ニ飯惟泰ハ止ル沼田平

八ハ其苗胤也ト云亦一説名跡考ニ沼田氏ハ其先三浦大介義明

ヨリ出其子矢田別當義澄其子若狭守泰村ニ男勘解由左衛門景

泰利根郡庄田ニ住テ沼田ト号ス其未代々相續トモ云イツレ是
按ニ東鑑ニ沼田太郎ト云人元曆文治ノ頃ヨリ見ユレハ緒形
ノホトモ三浦ノホト七思ハレス其前ヨリ沼田氏ハアリシナ
沼田ノ庄モアレハ勢ニモ沼田ノ地名聞ユ猶當國ニ正那波郡ニ
太平記ニ新田カ沼田ノ要害義重沼田城ニ籠云々沼田小太郎
續太平記ニ沼田彈正忠後太平記ニ沼田上野介同與八同弥十
郎後太平記ニ云新田義宗服屋義治ハ應安元年三月六日越後
ヲ立目ヲ不經而上野國沼田ノ庄ニ著此所ハ新田源氏ノ故郷ニ
テ過シ正慶年中義貞朝臣自是鎌倉ニ打向平高時ヲ誅亡給フ吉
例ナレハ爰ニテ素懷ノ幡ヲ開テ不日ニ鎌倉ヘ攻入ントス鎌倉
ノ足利左馬頭氏滿上杉民部入道道昌逆寄ニス上杉彈正朝房兄
弟千葉結城河越等加リ五十餘日對陣下野國ヨリ小山下野守義
政宇都宮下野前司基綱山越シテ沼田城ノ背ヨリ攻入ニ城兵敗
北義宗ハ越後義治ハ出羽ヘ落ル云々皇和真俗通ニモ引ケリ

鎌倉大草紙上野一揆ノ中ニ沼田上野三郎相洲兵乱記ニ沼田
丹後守同書ニ伊女入道ハ軍兵ヲ相催沼田ノ庄ニ陣ヲ張鎌倉九
北條五代記ニ長尾景春入道伊女上杉ニ叛沼田ノ庄ニ陣ヲ張ト
アルモ同傳説雜記ニモ三國ヲ越シテ沼田ノ庄ニ陣ヲ張ト云
長尾昌賢影像記ニ永正六年房顯白井沼田兩城ヲ攻ル沼田城至
ハ憲房ニ降云々關東古戦録ニ沼田上野太郎於古河城討死云々
同書ニ上杉憲政ハ忠臣ノ猪股左近大夫則頼ヲハ沼田倉内ノ城
主トナシ利根郡ヘ追退弘治元年北條氏康厩橋ニ在城沼田倉内
ノ城代猪股能登守則直ニ大胡山上兩城ヲ攻サス云々
猪股上杉ヲ叛シカ亦敗テ北條ニ降シカ則直ハ則頼ノ子ナト
同十月氏康倉内城ニアリ景虎沼田ヘ押搦日々足輕迫合アリサ
レト利根片科ノ流ヲ拘深泥足入ノ要害ナレハ互ニ武者扱不自
由ニテ自立タル戦ナク日ヲ送ル内景虎病氣ニテ翌閏三月三日

本國へ飯陣入同二年秋氏康東上州倉内城ニアリ景虎沼田へ押
寄十月三日ヨリ對陣弓銃炮ノ迫合ノニテ為差無戰景虎俄ニ
熱病發同十三日陣ヲ拂テ退越ト云 鎌倉九代記ニハ謙信沼田
へ出張氏康此由ヲ聞出向ト云
昌賢影像記ニ永祿元年ノ所ニ近年北條沼田ヲ手ニ入レ北條孫
二郎城代夕リ云々 新田正傳或問ニ永祿二年三月長尾謙信沼
田城至北條孫四郎ヲ攻落ス云々 豆相記ニ云永祿二年十月謙
信沼田城ヲ攻取之沼田ハ細成ニ男北條孫三郎居之云々
古戦録ニ云永祿三年十月沼田倉内城ニハ輝虎自身出馬有テ大
手へ被向大胡武藏守ヲ案内者ニテ柿崎本間松本等搦手へ押廻
戸神山ニ攀登春根川筋ヨリ大石大水ヲ投擲弓銃炮ヲ透間無ク
放ケルユへ敵方可防術ヲ失ヒ媾求城主猪股左近大夫小田原へ
走依之吳桃小川モ降叅利根吾妻兩郡一遍ニ麾下ニ從云々

昌賢影像記ニ永祿三年上杉輝虎上州發向沼田城ヲ攻ル白井築
輪惣社加勢沼田落城輝虎白井ニ入云々

古戦録ニ永祿六年總州大和田攻輝虎先陣沼田藤田能登信吉
アレハ沼田城代ハ藤田ナルヘレ

武田三代記ニ永祿十三年上杉謙信沼田へ打テ出タリレカ早々
引取亦長沼ニ出張ス天正七年卯二月武田勝頼上野國へ打出沼

田城ヲ攻落シ西条治部少輔ヲ以城代トス城至用土新左衛門浪
々ノ身トナリ何國トモナク落行ケリ云々 按ニ用上野新左衛門ハ

杉管領ノ田臣ニテ北條ニ降ル謙信入道ニ屬セリ前上野志ニ
越後へ退去トアルソ正シカルヘキ

羽尾記ニ云沼田ヲハ景勝ヨリ勝頼ニ讓ル勝頼ヨリ真田ニ給ル
然ルニ沼田平八城ヲ不渡沼洲ニ新城ヲ築平八ヲ置契約ニテ和
睦城ヲ受取實ハ偽ニテ平八ヲ攻ル平八打負落ル海野能登守城
代トナル亦上田ヨリ海野ヲ攻ル海野打負能登守父子迦葉山へ
落ントシテ追手ノカレハホツクノ尾名坂ニテ父子共ニ自害

上田ヨリ矢澤薩摩ヲ沼田ノ城代ニ置ト云沼田城ト倉内城トハ別ニ聞ユニ所ナルハ
上野傳説雜記ニ云天文中迄ハ山内上杉家ヨリ城代ス永祿ノ末
ヨリ天正ノ初迄ハ越後上杉家ヨリ城代アリ謙信卒後ハ上野大
半甲州ハ屬シ武田ヨリ城代ハ藤田能登守也其後上田ハ被預上
田ヨリ城代来ル天正十年三月甲州没落前橋ニ瀧川一益在任シ
沼田ハハ甥ノ儀太夫ヲ差遣置同六月信長生害上田持ト成同十
七年ヨリ小田原持ト成鉢形氏邦ヨリ猪股能登守參居同十八年
三月鉢形ハ飯ト云但藤田ハ越後ヨリ甲州ハ附渡ノ城代也トモ云
同書ニ沼田ノ城主萬鬼齊ノ子沼田平八ハ當城ヲ被追出女淵ハ
浪人新田桐生大胡等ノ人々ヲカタラヒ沼田ヲ取カヘサント天
正九年三月寄来却テ城兵ニ被欺討死シテ絶ト云
北條五代記ニ云上洲北條ノ持ト成沼田ハ鉢形氏邦ニ給氏邦猪
俣能登守ヲ置天正十八年三月猪俣沼田ヲ捨鉢形ニ飯ル云々

○和訓栞ニ云上野國沼田ノ三郎宗政ノ女歌傳説雜記ニ沼田五郎藤原家政ノ女ト云

立因少立因少後伏見帝御製ヲ夕マフ

上野ノ里上野ノ里故ニ圓珠姫ト名ツクト云

松屋叢話ニハ上野國沼田ノ尼岡珠カ歌トテ

御製ハ方ナシ 此尼カ歌ヲ清話抄ニハ下総國岩用浦ノ漁父ノ

娘カ歌連御書所

御書所ヨリ御歌アリシトソト云イワレ是ナルカ
○癸知村
鎌倉大草紙上野一揆ノ中ニ癸知上總五郎同平次右衛門

名跡考ニ沼田系因ノ中沼田太郎景継ノ子癸知三郎景宗アリト云
羽尾記ニ海野能登守息中務父子ハ沼田ヲ落迦葉山ニ越ントホ
ツ子ノ尾名坂ノ北ノ方迄落シヲ田口亦左衛門木内ハ右衛門追
カケシヲ取テ返シ討取是迄也ト田口力屍ニ腰ヲカケ父子差チ
カレテ相景ケリ云々傳説雜記ニ癸知左衛門五郎ト云人見ユ

○迦葉山

後上野志ニ云迦葉山龍華院弥勒寺在癸知村開山圓仁慈覺大師
檀越上野大守一品萬原親王仁壽三年癸酉六月四日トアリト云

日本後紀ニ弘仁二年九月丙寅上野國利根郡長野牧賜三品萬
原親王續日本後紀ニ兼和五年正月壬申一品萬原親王為兼
上野大守文德實録ニ貞觀二年三月七日丁巳詔以武藏國正
稅穀四百斛上野國二百斛賜傳燈大法師位丹仁於彼國志冬宿
禱故有此費ト見ユ丹仁和尚ハ壬戌年正月十四日逝スト元亨
四月任延曆寺座主貞觀六年正月十四日逝スト元亨親書ニ見ユ
平氏ナレハ其始祖タルヲ以此一院ヲ立シナルハ上野ニ久シキ
迦葉山ニハ佛法僧ト云鳥ノ鳴夏江戸砂子傳説雜記等ニ見ユ

上野名跡志二ノ下二十七

佛法僧ノ歌ハ新撰六帖夫木集等ニ見ユ

○吳桃

和名抄ニ奈久留美

名跡考ニ沼田系因太郎景繼カ孫ニ吳桃三郎景冬アリト云癸城
考ニ奈久留美城ハ上田ヨリ矢ヲ置テ守シム北條氏邦是ヲ攻取
依之小田原征伐モ是ニ起ルト云

○藤原

後上野志ニ藤原ノ若ハ小田原ノ持天文二十三年謙信拔ト云

○後閑村

八拘脰ノ神祠アリテ後上野志名跡考傳説雜記等ニ委シ安倍貞
任ノ殘黨ノ靈ヲ祭トモ是ヨリハ越後へ近ケレハ越後風土記ニ
見エタル八拘脰ノ靈ヲ祭ナラントモイヘリ八拘脰ハ諸國風土
記逸文ニ美麻紀天皇御世越國有人名八拘脰其脰長八拘多力大
強是出雲之後也其屬類多云々トアリ

○恩田村

西遊行囊抄ニ昔壽永ノ乱ニ木曾義仲ノ妾巴女力為ニ討レシ恩田ノ次郎力住所ト傳ト云

○花咲石

上野名跡考ニ云沼田花咲村ニ觀音堂アリ其傍ニ花咲石ト云アリト云々常ニ咲カ折ニ咲夏アルカ委不聞和漢トモニ誤國ニハ種

○相俣湯宿

田國雜記ニアヒマタ湯ノ原池ノ原ナト云所ヲワケユキ侍ニ道ノホトリノ尾花ヲナカメヤリテ

上野名跡考ニ下二十八

道真准后

標註ニアヒマタ湯ノ原池ノ原ハ相俣村湯宿村ニテ猿力京布施

町ノ間湯宿ハ湯ノ原トモ池ノ原トモ云ト云

相州兵乱記憲房京都へ訴書ノ内入道伊玄起逆心長尾六郎致一

味沼田ノ庄内へ打入号相俣地令張陣候間云々

梅花無盡蔵ニ小春且出沼田宿上野相間田大半山路逆旅之亭至

醉中発狂打著其妻于時暮雨俄降旅屋床漏滴 歩々攀高脚底危

雨殿十月忽西来硯盛屋漏聊磨墨數字改殘前日詩 僧萬里

○新巻村

鱈倉大草紙ニ長尾景春同為景公方ヨリ加勢アリテ荒巻ト云所

一陣ヲ取道灌塩賣原ニ陣取惡所ヲ前ニアテ待カケケルニ云々

○石倉

アヲマキト云地勢多郡吾妻郡ニモアレト越後ヨリ出張ナレ

二宮系図ニ云文明十七年越後ノ上杉民部少輔房能長尾為景ニ討ル顯定憲房越後ニ赴軍無利越後ヲ退上州ニ飯沼田ノ石倉長森原ノ館ニ入為景伊玄高梨等來攻永正八庚午六月推谷ノ城主高梨根津守ノ為ニ顯定討死傳記雜記同伊玄為景高梨ハ沼田ニ楯籠白井ヲ攻ントス白井ハ上杉憲房也白井ヨリモ沼田ヲ攻ントス沼田ノ大手戸鹿野ノ備大將ニハ尻橋ノ長井孫太郎景俊蟬谷加地稻葉曾我野村高山等館原ニ陣ス長井坂入原森下三ヶ所ノ備大將ニハ須田赤見神谷等也貝瀬ニハ沼田丹後守沼田勢百騎ヲ以待居タリ不動峠ト胡桃小川島三ヶ所ニ備塚原小川島委下三ヶ所ニテ四五度白井下合戰沼田方打負越後へ飯ルト云ハ人ニ向ニ長森原ハ石倉長峯原カ小川村ノ森原カト云

○小川村

後上野志ニ小川ハ沼田ノ子城ト云

上野名跡志ニ下二十九

名跡考ニ云沼田系図ニ太郎景繼カ孫ニ小川二郎景久アリト云傳説雜記ニ天正八年沼田勢小川ノ要害ニ取カ、ル可遊齊兼テ伏兵ヲオク寄手敗テ引北條殿被聞大勢ヲ以小川ヲ責亡可申風聞ニツキ可遊齊驚夜逃ニ落失ト云

○下川田村

傳説雜記ニ云下川田ノ要害ニ山名信濃守居時利根川満水ニテ沼田ヨリ後詰來カタキヲ計白井ヨリ寄山名門ヲ堅閉狼煙ヲ上テ沼田へ告沼田勢急スクハントスルニ利根川渡カタレ塚本肥前水ニ飛入真先ニ渡セハ皆一同ニ渡鯨波ノ声ヲ上ル山名門ヲ開出テ戰小勢ナレハ終ニ打死ス沼田勢ヲ見テ白井勢引ヲ推現峠ノ禁迄追返スト云同書ニ上川田衆十一人下川田衆十二人ト云信州小縣郡真田村山家ノ神社ニ正應三年庚寅三月三十日ノ古鐘アリテ上野國利根莊内曰根郷春名権現洪鐘トアリト云碓根

明神トハ別社カ土入ニ問ヘシ

沼ニノ北入櫻川ト云ヨリ硯石出ツ好古小録石研ノ内ニ上野國

沼田櫻川 雲根志ニモ硯ニ用テ上品ナリト云 和訓栞ニ五色

ナリト云

老神村ニ温泉アリテ浴人多シト云

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 硯石, 温泉, and 櫻川]

上野名跡志二編下卷終

